

里山のチカラ・生き物のめぐみ

ー人生100年時代の里山ウェルビーイングー



大草谷津田いきものの里（千葉市若葉区）

2023年10月26日（木） 13:30～15:00

講師 東京情報大学 名誉教授 原 慶太郎

【会場】 千葉市生涯学習センター 地下1階 小ホール

【対象・定員】 市民・40人

■申込み■

下記の必要事項をご記入のうえ、往復はがきかEメールでお申込みください

①希望講座名 ②氏名（ふりがな） ③年齢 ④郵便番号・住所 ⑤電話番号

※10月13日（金）必着 応募者多数の場合は抽選

■問合せ・応募先■

千葉市生涯学習センター 学習推進グループ

TEL:043-207-5820 E-mail: manabi.kouza@ccllf.jp



講演概要

里山のチカラ・生き物のめぐみ

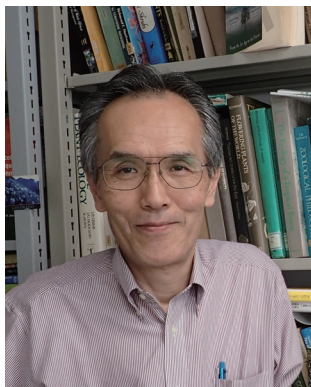
農林業が営まれるなかで維持されてきた里山には、人の暮らしのすぐそばに多様な生き物たちが生息し、賑やかな半自然の景観をつくりあげてきた。産業構造の変化とともに、人々の里山への関わりが薄れてきて、放棄された耕作地が増え、それとともに里山の生き物たちの一部が姿を消していった。一方で、20世紀が終わりを迎える頃から、そのことに危機感を覚えた人たちが放棄された里山に入り、自治体などとも手をたずさえながら保全活動が始まった。この活動が実を結び、それまで絶滅の危機に瀕していた野生動植物が再生してきたところもみられるようになってきた。

2005,6年頃を境に、日本は人口減少に転じ、少子高齢社会に突入した。その頃から、大地震や豪雨による自然災害が多発し、さらに2019年から始まった新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちにこれからの時代に向き合う姿勢について考える機会を与えてくれたように思える。人生100年時代といわれるこの時代を心身ともに健康で幸福に過ごすためには何が必要なのだろう。持続可能性（サステナビリティ）と回復性（レジリエンス）の二つは、これからの時代の鍵となる事柄である。都会に隣接し、身近に接することができる里山とそこにすむ生き物たちとの関わりを考えることは、そのための大切なヒントを与えてくれそうである。



講師紹介

東京情報大学 名誉教授 原 慶太郎



山形県米沢市出身、東北大学大学院理学研究科生物学専攻修了、理学博士。東京情報大学総合情報学部教授、ロンドン大学客員研究員などを経て、東京情報大学名誉教授。専門は、景観生態学、環境情報学。

里山景観や東日本大震災の被災跡地の持続可能な維持管理について、地域の住民やNPOと研究や実践活動を続けている。

日本景観生態学会（会長 2012-2015年）、自然環境復元学会（理事）、ノハナショウブ・ネットワーク代表、など。

主な著書に、『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』（古今書院）、『丹沢の自然再生』（林業調査会）、『田園景観の保全』（共訳、食料・農業政策研究センター）、『自然と歴史を活かした震災復興 ―持続可能性とレジリエンスを高める景観再生―』（東京大学出版会）、『景観生態学』（共立出版）、など。